日本女医会誌
複刊第15号

国際女医会長 デル・ムンド女史をお迎えして

日本女医会会長 佐藤やい

このほど国際女医会々長デル・ムンド女史は、スイスにおける国際女医会の理事会及び、アメリカ小児科学会へ出席されたのを機会に、その帰途わが国を御訪問頂いたことは、日本女医会としてこの上もない喜びでございました。

かつて昭和三十五年にも来訪され、私共は椿山荘に御招待して、賑やかな懇親のひと時を過しましたが、先生は今回で六回目の日本旅行とのことであります。

本来ならば、今回も会員一同で歓迎すべきはずでしたが、御滞在期間が短いこと、やや健康を害されていたため全会員皆様へお呼びかけする事が不可能でした。

それで私共役員一同が代表し、十一月二十九日、ホテル・ニュージャパンにおいて歓迎会を催し、一夕をお互いに語り合った次第であります。

デル・ムンド女史には、多年国際女医会の重要なメンバーとして、常に多大なる御協力を願っておりますが、特に、一九六二年（十二月二十九日）より一九六三年（一月七日）第九回国際女医会の東南地区の会合が、マニラで開催されました時には、地区の会長として絶大なる御協力を頂き、当時わが国からも十九名の会員が出席いたし、一方ならぬお懇しを頂きました事は、会員一同感謝感激で、今なお数々の話題となっております。

更に明年（一九六四年）開催のオスロ会合では、会長としての重責を荷なわれ、本会からも四十余名の会員が出席する予定でございます。

私共代表の役員は今後の国際女医会の発展に大いなる期待をもって、ムンド会長をお迎えいたした次第であります。特にこの度の御旅行は非常に御多忙なスケジュールで、日本へお立寄り早々の数日間は大変御疲労の由で、バーデン会及び、マニラ会合同の歓迎会にも欠席されたそうですがその後、除々に御健康も恢復され、先に述べた日本女医会の歓迎会当日は、お元気なお姿で、一同お喜びいたしました。

この席上において日本女医会から、ムンド先生御希望の日本の絹の布地を御訪日の記念として贈呈いたしました。

今後の国際女医会長として御活躍を切に祈る次第でございます。

（三八・十一・四記）

国際女医会々長
デル・ムンド女史

土産ばなし

大村ひさゑ

世は錦秋の好季というのに、われわれ医師の不快指数は今や最高潮に達している。健康保険問題。再診料の一〇のであるが）

無知を教え蒙を開くことができれば患者側もともに健保の改善に協力するにちがいない。それにはわれわれは常に固い団結の下、一人の脱落者もなく、たゆまぬ連続の努力が必要であることを忘れてはならぬ。

こんな重大な時に呑気に旅行では相済まないが実は先日一寸欧洲を馳け歩いて来た。旅も終りに近いある日を英京ロンドンに立寄った。はじめて見るロンドンではあり、人並に観光ケースも経巡ったが私は社会保障制度が完全だという英国が見たかった。

明治以来ほとんどすべてのことが英国を範として進んで来た日本のことである。社会保障制度が保守の権化の英国で完全に施行されているときけば、それに満腹の敬意を捧げて追従、盲進したからとて何の不思議があろう。

（英国では労働党内閣の時立法された点、これは何が何んでもいただかなければならない。健保組織を統一して基金のプールをはかり、すべての人に平等に充分な加療、受療ができるようにしなければならない。こんなことは医師が要求することではなく、不平等にある四千万の大衆が叫ぶことであるはずなのに、支払者代理店等は生命よりも銭の方が惜しくての反対である。だからわれわれ医師は機会を掴んでは、事例をあげては大衆に向って納得のゆくようにPRをしなければならない。

さてそこで日本の医師は昔の軍属よりも軽く取扱われて、自分の意志など一顧にも価しない今日の状態にまで追いつめられたのである。日進月歩の医学の道に邁進努力して来た意欲は消滅の渕に臨みかかっている。このあわれなわれわれよりもなお先輩である英国の医師は？　英国の医学はどうなっているだろうか。それよりももつとその医師に生命を託している民衆はどんなだろうか。

見たまま、聞いたままを記すことにしよう。

英国では一人の医師が一定地域内の人達から登録を受けて管轄する人数を確保する。丁度日本の主食登録のように、一寸した風邪や腹こわし位のものはその医師が診て処方箋をかく、薬剤師から薬は貰う。病気が少し重いと直ぐに病院へ送る。小病院で不充分となるとその上の病院へ送る。診療料も処方料薬代もち論ただである。国民全部が保険だから保険証などいらない。

それゆえか旅人でも診察も薬もただである。妊娠分娩の処置も全部保険である。分娩、産褥は十日間の入院が許可される。しかしこの分娩入院は初産の時だけが無条件で許可されるが二度目からは自宅分娩ということになり、これは助産婦の手に移る。助産婦には麻酔使用も許可されているとのこと。が助産婦の仕事場は少くとも五分以内に医師の到着可能なことという条件がついている。

経産婦で入院分娩が許されるのは次

於　ロンドンにて
右より二人目筆者

の順位になっている。

一、妊娠中毒症患者の分娩。二、四十才以上の産婦。三、四回経産以上の産婦。四、初産が異常であったという二回目の分娩。四位の初産が異常というのがまことに簡単で、どんな異常であった等は全く不要で、とにかくその登録医が一筆、初産が異常。と記せば入院の許可が出るとのことである。

一妊婦からきいた話

人手がないので妊娠は二度目だけれど入院分娩にしたい、例によって書いてもらって病院へ行き、隔三週間の診察を受けていままでに四回受診、目下妊娠五ヵ月という。

毎回胸部の診察と内診、その内診が検診台の上で行うのではなくて普通の診療ベットでするとのこと。四回が四回とも医師が違う、患者側にしてみれば不安この上なしという。

ある既往症についての一例

正常分娩の初産を終って一年以内の妊娠でなんとはなしに辛かったので、人工妊娠中絶を行った。しかし依然として健康感がなく、時々腹痛もあって面白くなかった。ところがある日いつもより激しい腹痛があったので、医師に往診を求めた。直ちに入院の手続きが打たれた。病院では癒着の痛みだから痛みをとめるためには開腹手術、といって手術が行われた。退院後一ヵ年になるが今日でも時々腹痛に悩まされるが、しかしまた切られるかと思うと医師にも診て貰えない。ノイローゼになりそうだと。

その手術を受けた時の状態を尋ねてみると、嘔吐もなしガスも出ていたしもち論便通もあり、腹痛もなかったとのこと、「それではその翌日メンスがあったでしょう」との問いに「その通り」との返事、手術後今日までの腹痛もどうやら月経痛らしい。

英国の病院は全部が国家の経営であり、医師はみな国から雇われている。も一つ精魂こめて治療にあたった重症患者が快癒した時の医師の満足感、これこそ名匠の心境に相通ずるものだと思うのに、それがこの組織では全く味うことができない。

医学はドイツ、アメリカ、ソビエトさてはフランス、そして日本は世界の水準を超すとも決して劣らぬと自負しているのに、英国の医学はどうか、人命の尊重を誰が唱えるのか。

寒々としたものを脊筋に感じながら私は帰って来たが。

川野辺静先生十年のあゆみ

仁瓶　礼子

寒いある朝トントンと戸をたたく人があり、何事かと出てみると、何でもお孫さんが重態になったが、このまま死なせるのは残念でならない。何とか川野辺先生に一度診察して頂きたいとのこと。こんなに悪くしてからお願いするのは勝手すぎて……貴女からお願いして頂けないかとの話。

それから一週間ばかりすると、又この人が見えて、「適切な処置をして下さってどうやらこちらのものにして頂きました。うわさにたがはず立派なお医者さんですね」と、先生をほめたたえて、頭をペコペコ下げて帰って行かれたが、こんな時、私達は肩身が広く、うれしくてますますお医者さんとしての先生ファンになってしまった。

先生の婦人会活動は長く、終戦直後焼土の中より立上った当時、市民は衣食住に困窮している時で、自分の事で精一杯という中でいち早く同志とはかり、静岡市婦人連盟を結成し、地域社会福祉のために先頭に立って活動され今日の婦人団体の基礎をつくり、現在の充実発展まで育てて来られた功績は大きく、地域婦人会の育ての親の一人として、特筆される方と思う。

新憲法により、選挙権を得た私達にまず勉強を、婦人の地位向上をと叫ばれ、昭和二十四年教育委員が公選となるや、自ら責任者となり、青島いくさんを第一位で当選させ、婦人の力にアット言わせたものであるが、婦人会はこの事業を成し遂げたことによって自信を持ったことは事実で、婦人会の力はこの時見直されたわけである。この婦人連盟は昭和二十六年には各町にしっかり根をおろし、葉もつき、立派な静岡市婦人団体連絡会と成長発展し、この頃より県下婦人の心のよりどころとして婦人会館をつくる計画を県下婦人団体の代表と進められ、その一歩として県下一斉にボロの回収を実施し、それから十年余県婦人団体の会長も二代三代と改選され、ついに初期計画をされた先生の手によって目的を実現今日の婦人会館の偉容を見るに至ったのである。

現在婦人会館は多くの文化講座を持ち、勉強の範囲も巾広く、生徒もミスよりミセスと県下婦人の教育に専念される最近の先生の姿は見ていてもお気の毒なほど多忙であるが、近い将来必ず実を結ぶことを信じるものである。会館結婚式は時節柄目の廻る忙がしさで、手軽なしかも意義深い結婚式が上げられるというので、魅力ある式場となっている。先生について語る時忘れてならないことは、終戦後の混乱により赤ちゃんの捨て子が問題となり、婦人連盟の議題となるや、県下にその趣旨を説いて廻り協力者を得、市議会を動かし設立の運びとなったが、当時市は焼土より立上ってまもなく、事実政治の上で赤ちゃんの事を考える暇もない状態で、なかなかはかどらなかったが、昭和二十六年にはついに市議会議員選挙に立候補当選するや、念願の乳児院設立に市議会をまとめ、二十七年に開設となり、自らその責任者となって、運営から赤ちゃんの保健の一切を脊負われて献身され、この乳児院によって多くの不幸な赤ちゃんが救われ、この事業に対する理解者も日に数を増してきている。ミセス・マッケンジーはその代表的な方である。

尚赤ちゃんの幸せは両親のもとで育てられる事であると、養子縁組に力を入れられ、県下に四十人余り、遠くはアメリカまでいった子供もあり、すべて養父母のもとで幸せな生活を続けている。地味な限りない努力のいる大きな事業であったが、先生の張り切った美しい姿でもあった。

昭和二十九年七月には欧州へ赴かれ先進国を視察され、ますます磨きがかかり、県婦連会長、県社会教育委員、昭和三十六年には文部省より選ばれアメリカ視察に日本代表として派遣される等、先生の実力は今やすばらしいものである。また昭和三十二年に発足した結核予防婦人会は昨年は全国表彰を受け、本年は栄えある文化保健勲章を受ける等、先生を中心に静岡県結核予防婦人会の働きはめざましいものである。こうした、幾多の社会福祉事業、社会教育事業は今や全国にもまれにみる輝かしいものであり、同時に静岡県婦人団体の誇りでもある。

現在先生のお仕事の肩書を申し上げますと

静岡県婦人会館
婦人生活文化研究所長
静岡県結核予防婦人会々長
静岡県社会教育委員
静岡家事調停委員
日本女医会静岡県支部長
医療法人至誠会カワノベ医院院長

これだけでもまいってしまうのに、このほか社会教育に奔走される、精力的な先生の活動振りには敬伏するばかりです。

懇親会を箱根山にて……

中村　キヌ

最初にお断り申さねばならないことは、懇親会々場やその他終始御斡旋下さった箱根町御開業の福永姉にお礼を申上げ、私は十七日も婦人団体全国大会出席のために早朝から出発し、箱根観光の御案内もせず、御遠来の皆様をお見送りも致さず、従ってこの文を書くことは意も尽くせず、又潜越至極と存じますが、本部の御命令ゆえ、ここにお引うけいたし又二つには御参加の皆様におわびのつもりです。

十六日総会終了後、五十二名は懇親会々場箱根松坂屋を目ざして、女子医大前より二台のバスに分乗小田急新宿

駅に向った。箱根を会場としては大いに地元意識でサービスするつもりであったが、実は、私は東京から小田原までの直行ははじめてで、まずまっ先に嬉々として指定席におさまり、皆様とともにお互いの顔を見合せていとも御満悦気。移りかわる外の景色よりも、女学生の旅行気分で懇親会はまず車内より。湯本でバスにのり換え一路箱根の山へ。

国際的観光地としての箱根は昔ながらの緑に包まれつつも、真に近代化された湯の町である。頭のよいガイド嬢に、聴診器やメスをとっては自信満々の女医さんも、頭をためされたり、慰められたり、大いに笑わせられた。福祉国家の現在は初花のような貞女は出ない。山もほの暗い頃、会場に到着した。先着の福永姉、湯本姉に迎えられまず各部屋に落つき一風呂浴びて八時頃から懇親会が開かれた。

大村姉の名司会の下に、佐藤会長、川那部副会長の挨拶で日本女医会の使命や発展について和やかに相談的なお話があり、その後アトラクションに入り渋味、華やかさをおりまぜての、いつに変らぬ名人ぶりに一同感服するとともに時の経つのを忘れた。記念の撮影をいたし、十時散会。各部屋では又二次懇談会もさかんであった。十七日は観光日和で皆様のよい御観光を御無事御帰着を祈って岐阜に向った。

寄稿が前回会誌発行後でしたので今回掲載いたしました。

日本女医会中野支部懇親会

支部長　日吉須恵

秋雨蕭条とこめる十月二十七日、中野医師会館において中野支部懇親会を開きました。陽気は春を偲ばす暖かさでしたが、あいにく日曜日だったので他の行事と重なり、御出席者は二十三名という心細さでしたが、なかなか楽しく有意義な半日でした。

幹事さんの開会の挨拶に続いて、ちょっと私も一言御挨拶。中野支部を春光会と命名して、とにも角にも十五年の歳月を送り、齢い妙令に育ったことが感無量です。春光会員は現在八十名近くの方々が参加しており、未加盟の方々もまだ多数ある事ですが、私達はもっと努力して各方面に呼びかけ、この会を暖かく育てて参りましょうと誓い合いました。

乾杯の後、和気靄々と昼食をすませて、大村女史の西欧視察談を興味ふかく伺いました。大村女史から微に入り細にわたって、スイス、デンマーク、西独、フランス、伊太利、英国等々、国により風習の違いなど、西欧の女性はおしなべて健啖家揃いで驚いたこと。そして東西ドイツの国境に立ったときは、何ともいわれない悲哀に打たれたことなど、ユーモアも交えてお話し下り、一同驚いたり、笑いころげたりで一席をうかがいました。会の途中から医師会長と副会長さんがご出席、お三方の講演も拝聴、会員の麻薬使用に関する事項や、健保国保に関するお話再診料に関する将来のお話、医師会互助会の将来の構想などについての質疑応答を活潑に行ない、大変活気に満ちた会となりました。

最後におそえものとして会長さん副会長さんたちのかくし芸や、小室女史のお三味線に合わせて私が下手な喉で松のみどりを唄い、にぎやかなうちに閉会しました。

とも角、御出席下されば何らかの収獲があると信じております。次会にはもっと沢山の方々の御出席をお願いしたいと思います。この会開催につき御努力下さった各班長さんの先生方、副幹事長の村田女史、幹事の川手、名取両先生方に深く感謝いたします。

日本女医会
埼玉県支部総会に出席して

大宮市　北浜清恵

九月十五日、日本女医会埼玉県支部の総会が開かれた。当日は、折柄老人の日とあって、会場の大宮商工会館は幾組かの催物で騒然としていたが、我が女医会は、矢張り一同の尊敬と注目の的となったようだ。

定刻一時開会、東支部長の御挨拶に始まる。その堂々たる、そして年輪の深味とでも云うか、埼玉県女医会を脊負って立つ東支部長は、われわれのホープであると思った。

次に至誠会より林さく子先生が会計報告をなされた。何しろ貧乏世帯のやりくり財産なので、三十七年度の会計面は青息吐息であった。そこで、三十八年度は、一歩前進して埼玉県は試みに各出身校の支部会を一括して女医会一本化して切ってみては――の意見が出て、この案が実現するのではなかろうか。一人でも多く入会すればそれだけ会計面も潤おうのであるが、入会についてまだ疑問を持っている人があり――自分は医師として日本医師会、又所属の地方医師会に入っているので、今更女医会に入る心要を認めない、男であろうと女であろうと、医者として平等な立場であるべきで、女医会に入るのは無意味である――と。まして女医会が何か政治的意味の結合でもあるかのごとく勘ぐっている向きもあるので、この一本化を機会に、同業者としても相互の親睦をはかるべく日本女医会は世界女医会への幹流であり、次回の世界女医会には一人でも多く海外へも躍進すべく話合ったのである。（実際にグループで英会話、タンツェン、あるいは謡曲、日本舞踊等猛勉強の趣きをば洩れ聞いている）

相互の親睦をはかるゆえ――も三十八年度からブロック活動を活潑にして、お互に保険診療の多忙に追われていても、度々会合を重ねて、診療面での経験談等の勉強会、会費徴収、あるいは旅行、観劇、食べ歩き等のレクリエーションをおおいに楽しみ、かつ利用し合うことを約束した。

話題豊富の内に、当日の講師平瀬文子先生、日本女医会本部より会長佐藤やい先生の御来訪を得、会場は一段と活気付く。

平瀬先生の御講演は「監察医より見た医療過誤」その道一筋に進んで来られた先生の、自信に溢れたお話は私達の日頃の診療の上に思い当ることばかりで、非常に有意義であった。

「智」で磨れた先生の全身から飛びだす一言一句はつきる所を知らず、時間の制限を残念に感じた次第である。次第七回（昭和三十八年度）

日本女医会石川県支部総会報告

米林　梅子記

記秋たけなわの十月二十日（日）午後二時から新築された金沢市昭和通り鉄工会館三館四号室で総会を催しました。

一、開会の辞　荒井梅子支部長
二、本部御報告伝達
三、昭和三十七年度会計報告
　早稲田かめの副支部長
四、講演「活性ビタミン剤と新しいトランキライザー」
　三共株式会社学術部次長
　徳武　邦男氏
五、閉会の辞　一林　なを氏

来年度本部役員改選にそなえ、当支部長の件について協議の結果、万場一致で現支部長荒井梅子姉の留任が決定いたしました。

副支部長早稲田かめの、島津つる、

支部役員　一林なを、米林梅子
　堀岡芳枝、吉池朝子
　宮村明子、

出席者（敬称略）

荒井梅子、早稲田かめの、一林なを
一林ハル、島津つる、桜井俊重
堀岡芳枝、織田秀子、米林梅子
広瀬　斉、吉池朝子、宮村明子
金木志保子、横井美佐子、
以上十四名

に学術映画「心電図」「疲労と結核」このような勉強も普段保険診療でマンネリ気味の我々にはいい刺戟を与える。

映画終了後の明るさを取戻した中で

懇親会に移り、尊敬すべき先輩、頼母しい後輩と入り交って話は弾み、その二、三を拾って見ることにする——。

私の近所の女医エルッテン麻薬問題に引っかかってね。たしか新聞沙汰にはならないで済んだんですがねえ、警察へ呼ばれて、徹夜でカルテを調べられたそうですよ。女はどうしても、情におぼれ易いのでね。私はクランケが少し苦しんでも成るたけ麻薬は使わないことにしているのよ——（ギネの先生）

——全くひどいクランケがいて私もえらい目にあったんです。ゲブルトさせて一銭も払って貰えず、おまけにその亭主が凄んで〃女医のくせに金を請求しやがる〃と捨てぜりふを残して四五日で逃げ出して行ったのよ。癪に障るったらなかったわ。女医だって霞を食べて生きているわけではありませんからね——。

——私など不潔を我慢すれば、まだまだいいわけですね。農家へ往診に行くと、そこのカアチャマが、診察の終るのを待ち構えていて〃マア先生様手を洗って下さいよ〃と小さなバケツに水を三分の一程入れて突つ立ったままヌーッと出すのよ。シマッタ!!と思った時は既におそく、仕方なく指先を一寸入れると、すかさずお腰の煮しめたような手拭をさし出して呉れる。この小さなバケツはどこかで見たようなと考えたら、数年前家で便所掃除に使っていたのと同じ型。〃どうぞ先生、粗茶を一杯〃で暫く待つこと三十分、嫁女がヤケにうちわをバタつかせて、涙のでるほど煙った揚句、やっとこさ「粗茶が」出る。ムコ殿は降りしきる中をオートバイで飛び込んで来て赤い包紙を開く、一個十円位のモチ菓子が十個、むりやりに、どうぞどうぞとすすめて呉れる。これはまだいい方で、時には沢庵なら二切れ、人参の味噌付けなら三本、〃マア先生チョツクラ手を出してくんな〃アスカリスが心配でムズムズするわよ——。

本部の佐藤会長先生も、この会の盛大で活潑な事は非常に心強くうれしいことと喜んで下さって、次回は小川町にて開会を約し、一同名残り惜しく散会したのが五時。当日の出席人員は三十五名であったが、このような機会に出席できなかった人は、実に気の毒であると思った。

日本女医史書評

——国立国会図書館月報より——

女医というと、私たちは一般に明治以後の新しい言葉だと思っているが、これが大宝年間の「令義解（りょうのぎげ）」巻八の医疾令に「女医」という言葉そのままに記載されていたと知って、多くの人は一驚するのではないだろうか。

この本の遠く伊邪那岐、伊邪那美命の物語から説き起し、吉岡弥生の一生を以て結びとしてある。全体が五章に分れ、一、二章は記録の余りなかった江戸時代までを一応シーボルトの娘のことで概要的な記述を終り、三—五章をそれぞれ明治、大正、昭和と一章ごとにとり、筆者もここに力を入れて頁の大半をあてている。最初の女子海外留学生のこと、女医学校が初めてできるまでの話など。

医学には興味のない人にも面白いものではないだろうか。さらにこの章は三代にわたって活躍し、日本の今日の女医界を築きあげた女傑吉岡弥生の一生を軸として、同時代に前後して世にでた女医達の一人一人に光をあて、その時代的条件、歴史的事件などを背景に織りなして浮彫りにし、その生い立ち、環境、勉学の方法、仕事ぶり、恋愛などを簡潔にまとめて、それぞれの女先覚者達の個性を鮮かに印象づけている。彼女達の生涯を通して、日本近代の黎明期に、身を挺して未知の時代へと突進んだ人々の希望と苦悩と勇気とが伝わってくる。

女医史というちょっと堅い名に似ずなだらかな文章で面白く書かれているのもよく、これら女性の先覚者達が女性としての社会的生理的な苦悩ともいかに闘わなければならなかったかについて暖かい眼を注いでいる。

（桜井幸子）

以上の書評が発表されているが、製作者として本会より依頼した中央公論事業出版より図書館に一部寄贈され、後日本会からも一部寄贈、二部購入して頂いた次第であります。今回、国立国会図書館週報所載により広く海外にまでこうした出版物が紹介されるに及び、ハーバード大学から東京出版販売株式会社海外課をとおし次のような注文書が届いております。

〃種々ご都合おありかと存じますが、ハーバード大学より研究資料として特に要請されておりますので、当課宛是非々々御納品下さるようお願いします。〃

とのこと。つづいてオーストラリヤ、ナショナルユニバシティーよりの申込みに加え、早稲田大学、女子栄養大学婦選会館調査研究部をはじめ、各県図書館よりの注文がきております。

女医史の残りが百余冊しかございませんので、できるだけ日本女医会々員の方々のお手元にと願っております。御希望の方は代金九百円を添え本部に御申込み下さい。（A5、328ページ）

総会アンケート

前会誌十四号で総会の報告をいたしましたが、席上で配布されましたアンケートの内容が紙面の都合で掲載できませんでしたので、今回簡単におしらせいたします。

出席者一二七名の中、八一名の会員の方に御協力頂きました。

㈠ 女医会に対し御希望の項目に○印をつけて下さい。

1、講演会をしてもらいたい　6
2、社交的な会にしたい　25
3、慈善事業をしたい　0
4、支部からの講師の斡旋に応じてほしい　2
5、個人的に専門家の意見をききたい　10
6、医師のアルバイトを世話してもらいたい　17
7、映画会、音楽会をしてほしい　19
8、お客様の時、運転手つきで車をかして下さる。　31
9、講演をして下さる。　33
10、会合の時部屋をかして下さる。　40

㈡ 私共の会に必要な時だけ一番楽しく御協力いただける項目のいずれかに○をつけて下さい。

1、お客様の時（お茶の会、お食事の会）御出席下さる。会費は自費の場合もあります。　31
2、自宅での時間を下さる。（書類、通知などを書いたり、電話連絡をして下さる。）　23
3、寄附をして下さる。　18
4、会費をあつめて下さる。　14
5、本部において頂いてお手伝いをして下さる。　13
6、外国語で協力して下さる。　8
7、開業医の先生のアルバイトをして下さる。　13

十年分会費前納者

（加多乃会）
鈴木かほる
（鶴風会）
足立智恵子　天沼　もと
真鍋　昌子　松尾　周子
倉島　槇子
（至誠会）
坪井　初音　東　より
宮崎　悦子　佐藤　はつ
窪　敦子　今野　信子
国貞　勝子　上條　正子

東京都保健所医師募集

応募資格　身体強健年令五十才未満
待遇　公務員給与のほか医師研究手当、家族手当、交通費、その他を支給
勤務場所　都内区部及び郡部保健所
採用人員　若干名
希望者は履歴書、写真、免許証写等をご送付下さい。
おって面接日を通知します。
詳細については左記へご照会下さい。
東京都千代田区丸の内三の一
東京都衛生局総務部管理課
電話（212）五九五三番

昭和三十八年十一月二〇日印刷
昭和三十八年十一月二五日発行
編集人　福田
発行人　日本女医会　幹
発行所　東京都新宿区市ケ谷河田町19
印刷所　東京都港区麻布田島町63
福田印刷株式会社

題字（故吉岡弥生）